

講義年月日	2003年4月9日(水)
講演者	阿部 臣彌氏(中央大学図書館事務部長)
テーマ	中央大学図書館の将来構想とスタッフ人事
講義内容	<p><b>1.大学をめぐる競争的環境</b> 各大学は、少子化や独立行政法人化、COE に見る国庫補助金の重点配分、国際化などへの対応を迫られている。</p> <p><b>2.今、大学に何が起きているか</b> 各大学では、定員割れ、独立行政法人化による合従連衡、COE による補助金の重点配分、郊外大学の都心回帰、アジアからの留学生増などの状況が進行している。</p> <p><b>3.経営危機にさらされる大学図書館</b> 大学図書館は、情報化の爆発的進行、利用者のニーズの多様化と高度化の趨勢に対して、職員および図書予算の削減、既存施設の限界等の経営危機にさらされている。</p> <p><b>4.大学図書館への社会的圧力</b> 大学図書館へは、情報化、ニーズの高度化・多様化、経営合理化の波が押し寄せている。</p> <p><b>5.中央大学図書館の対応</b>  <ul style="list-style-type: none"> <li>・合理化圧力への対応   アウトソーシングの導入とコアスタッフの確保</li> <li>・情報化への対応       電子資料費の増額   洋雑誌のタイトルカットとコア・ジャーナルの確保</li> <li>・図書館システムのリプレイス</li> <li>・高度化・多様化するニーズへの対応    社会人大学院・専門職大学院図書室の開設</li> <li>・学部新生への図書館利用教育プログラムの実施</li> <li>・総合学術情報サービスセンター構想の推進</li> </ul> </p> <p><b>6.総合学術情報サービスセンターがめざすもの</b>  <ul style="list-style-type: none"> <li>・情報媒体のマルチメディア化や情報流通のインターネット化の推進</li> <li>・情報生成・発信   資源共有   学内組織の連携・統合</li> </ul> </p> <p><b>7.総合学術情報サービスセンターが提供するサービス</b>  <ul style="list-style-type: none"> <li>・全学総合学術情報データベースの提供   デジタルコンテンツの制作・発信</li> <li>・情報リテラシー教育支援、マルチメディア教育支援</li> </ul> </p> <p><b>8.総合学術情報サービスセンターの機構</b>  <ul style="list-style-type: none"> <li>・既存組織の連携から始まり統合を志向する全学横断的な機構</li> </ul> </p> <p><b>9.今、取り組んでいること</b>  <ul style="list-style-type: none"> <li>・総合学術情報サービスセンター共同事業推進協議会の結成</li> <li>・中央大学総合学術情報データベースの構築</li> <li>・デジタルコンテンツの制作</li> <li>・著作権問題ワーキンググループの発足</li> </ul> </p> <p><b>10.今後の検討課題 -センター構想実現へ向けて-</b>  <ul style="list-style-type: none"> <li>・伝統的図書館と電子図書館との融合</li> <li>・情報のflow とstock (情報の選択的収集と保存)</li> <li>・図書館のIdentity の再確認 (蔵書構成の確認と特色のある蔵書構築)</li> <li>・大学のIdentity と経営戦略 (大学のIdentityを象徴する図書館)</li> </ul> </p> <p><b>11.図書館員に期待すること</b>  <ul style="list-style-type: none"> <li>・図書館以外の外部との交流</li> <li>・旧来の図書館の固い殻を打ち破る発想</li> <li>・大学経営につながる図書館経営への政策提起</li> </ul> </p>
感想	現在の大学図書館をめぐる社会的状況について、また、それに対応する方策について中央大学図書館での事例を具体的に伺った。合理化や情報化への圧力、また、高度化や多様化する利用ニーズなど多様な問題に直面していることを再認識した。その一方で図書館サービスを担う人材については、今まで以上にスペシャリストを目指すように求めていることが印象に残った。
配付物	競争時代における図書館経営」